

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 17 日現在

機関番号： 32608
 研究種目： 基盤研究(B)
 研究期間： 平成 22 年度 ～ 平成 24 年度
 課題番号： 22320148
 研究課題名（和文） 市民社会と暴力、市民社会の暴力—ドイツ・ヨーロッパ近現代史再考
 研究課題名（英文） Violence and/in civil society. Reconsiderations on Modern and Contemporary History of Germany and Europe

 研究代表者
 西山 暁義 (AKIYOSHI NISHIYAMA)
 共立女子大学・国際学部・准教授
 研究者番号： 80348606

研究成果の概要（和文）：

本科研では、19 世紀後半から 20 世紀前半にかけてのドイツにおいて、暴力がどのように発現し、受容（あるいは拒絶）されてきたのかについて、近代における暴力全般にかんする理論的考察とともに、各メンバーが個別テーマにおいてそれを検証してきた。前者にかんしてはドイツ、アメリカの研究者との対話を通して行い、後者については、今後開催予定の日独共同シンポジウムにおいて、その最終的な研究成果を問う予定である。

研究成果の概要（英文）：

The overall objective of this research project was to ask how and why the violence occurred and accepted/rejected in the society in Germany from the middle of 19th and that of 20th century. It was conducted in two operations: The one is to refine our understandings about the violence in modern history through dialogues with German and American colleagues, the other to examine it by individual researches. For the latter, the final results will be presented in a symposium in March 2014.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 22 年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
平成 23 年度	3,000,000	900,000	3,900,000
平成 24 年度	2,500,000	750,000	3,250,000
年度			
年度			
総計	8,900,000	2,670,000	11,570,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学、西洋史

キーワード：市民社会、暴力、ドイツ、近現代史、国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

本研究の出発点となったのは、以下の認識である。一般にそれ以前の時代と比較すると国家間や社会生活で直接的暴力行使が抑制されたとされる 19 世紀の市民社会が、20 世紀になってなぜ暴力的な社会へと急変したのか、という問題は、近年

歴史学では近代・現代の時代の特徴を考察するうえで重要な切り口と認識されるようになってきている。

2. 研究の目的

本研究は、前項に示した近年の研究状況を前提に、この問題が典型的かつもっ

とも明瞭に示されている 19 世紀から 20 世紀前半のドイツを中心に、市民社会は暴力をどのように認識したのか、また市民社会において暴力はいかに発現・行使されたのかについて、個別の実証研究をおこなうものである。そしてそこから得られる知見から、「文明化」論 (N. エリアス) やドイツ史における「特有の道」論の批判的再検討を踏まえつつ、近年の研究において連続性よりも断絶が強調されている 19 世紀と 20 世紀のドイツ史を捉え直し、それを通じてヨーロッパ近現代史の新たな、重層的かつ総合的な把握を目指している。

3. 研究の方法

本研究では、主に以下の形で研究を遂行した。

(1) エリアスをはじめとする「文明化」論から最新の政治的、社会的暴力にかんする歴史研究まで、理論的な考察をグループ全体において行う。これはとくに 2010～11 年度に集中的に行った。

(2) 個別研究については、19 世紀、20 世紀をテーマとするグループに分けつつ、2011～12 年度に、ワークショップの場で中間報告を適宜行い、研究自体の内在的なテーマについての議論とともに、(1) で述べた理論的議論に対するスタンスについても併せて検討した。なお、個別研究のテーマは以下の通りである。ナチズム体制と暴力 (木村)、マックス・ヴェーバーと平和運動 (今野)、ヴァイマル期における監獄と懲治制度 (佐藤)、19 世紀ドイツにおける反アルコール運動の暴力観 (辻)、帝政期ドイツにおける学校と暴力 (西山)、19 世紀ドイツにおける学生団体と決闘 (森田)、1848 年革命における市民・労働者騒擾と儀礼的暴力 (山根)。

4. 研究成果

上述の研究目的、研究方法を踏まえ、以下の 3 点について記述する。

(1) 暴力の政治社会史についての理論的考察

この点については、初年度よりドイツを中心とする欧米圏、そして日本語の研究文献を、研究分担者たちの間で合評するかたちで理解を深めることになった。とりわけ現在の研究については、これまでの結果としての暴力を重視する議論に対し、暴力がエスカレートするプロセスそのものに着目する研究が台頭していることを確認した。ただしこのような議論をどのように個別研究に適用するかについては、それぞれのテーマに依存する点も大きく、そこからさらにより一般的な議論に結び付ける点については、2014 年 3 月のシ

ンポジウムとその準備作業のなかで最終的な詰めを行うことになっている。

(2) 欧米研究者とのネットワークの構築

この点は、それ自体が目的ではないが、(1) で述べたような研究動向の把握を、たんなる文献を読むだけではなく、対話を通して深化させるとともに、我々のグループの研究成果を国際的に発信するという点でも重要な要素であることは言を俟たない。本研究では、通算で 6 名のドイツ人 (あるいはドイツを本拠地として活動する) 研究者を招へいし、ワークショップやシンポジウムを開催した (そのうち一部は 2011 年 3 月の東日本大震災により中止となったが、その後も研究分担者らの渡航などを通して緊密な連絡を取っている)。

(3) 最終的な成果の提示

このようにして構築されたネットワークをもとに、最終年度 2013 年 3 月にベルリン・フンボルト大学において、ワークショップを開催した。ただし、ここでは収集、分析した資料の暫定的な成果の提示にとどまるものであり、個別研究の最終的な公表と、全体的な議論の総括は、2014 年 3 月同大学でのシンポジウムにおいて行われる予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 35 件)

木村靖二、ナチズム体制と暴力装置、立正史学、査読無、第 113 巻、2013、pp. 1-23

森田直子、ドイツ近代と決闘—エリアスとフレーフェルトを中心に、立正史学、査読無、第 113 巻、2013、pp. 43-63

西山暁義、「文明化」と「野蛮化」—ドイツ近現代史における市民社会と暴力、ヨーロッパ研究 (東京大学ドイツヨーロッパセンター)、査読無、第 12 巻、2012、pp. 145-151

ヘルムート・ヴァルザー・スミス (西山暁義 訳)、ドイツ社会における暴力—長期的現象としてのナショナリズムと反ユダヤ主義?、ヨーロッパ研究、第 12 巻、2012、pp. 153-170.

ミヒャエル・ヴィルト (西山暁義 訳)、「自己への権限付与」としての民族共同体—ナチ・ドイツにおけるユダヤ人に対する日常的暴力、ヨーロッパ研究、査読無、第 12 巻、2012、pp. 171-184

[学会発表] (計 12 件)

佐藤公紀、ヴァイマル期における釈放者扶助の展開—「ベルリン受刑者扶助協会」の活動を中心に、西洋近現代史研究会、2012 年 3 月 24 日、専修大学

〔図書〕(計 6 件)

ヨアーヒム・ラートカウ (海老根剛、森田直子訳)、みすず書房、自然と権力、2012、592。
ジャン=ジャック・ペッケール、ゲルト・クルマイヒ (剣持久木、西山暁義訳)、岩波書店、仏独共同通史、第一次世界大戦(上下)、2012、520。

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西山 暁義 (AKIYOSHI NISHIYAMA)
共立女子大学・国際学部・准教授
研究者番号：80348606

(2) 研究分担者

木村 靖二 (SEIJI KIMURA)
立正大学・文学部・教授
研究者番号：20011306
今野 元 (HAJIME KONNO)
愛知県立大学・外国語学部・准教授
研究者番号：60444949
佐藤 公紀 (KIMINORI SATO)
東京大学・総合文化研究科・研究員
研究者番号：70586536
辻 英史 (HIDETAKA TSUJI)
法政大学・人間環境学部・講師
研究者番号：80422369
森田 直子 (NAOKO MORITA)

立正大学・文学部・講師
研究者番号：30452064
山根 徹也 (TETSUYA YAMANE)
横浜市立大学・国際総合科学研究科・准教授
研究者番号：10315822

(3) 連携研究者

()

研究者番号：